

- 44) ウラジロイチゴ類の一新種で、細い刺を密生する萼は花後伸長する点が著るしく、ブータン・チベット・ネパールに分布している。
- 45) マルバフユイチゴに似た新種で *Rubus calycinus* と *R. nepalensis* (*R. nutantiflorus* Hara) とのやや中間の性質を示し、ブータン・シッキムに産する。
- 46) ネパール産の小形な *Begonia* 属の新種で、花も果実もきわめて小さい。1810年に Hamilton が見出して以来長らく不明だったが150年振りに花と果実をつけた完全な標本が採集された。
- 47) シッキム・ダーズリン地方に産するチゴユリに似た新種で、これまでトウチクラン類と混同されていた。

□日本化石集 第一期分 Atlas of Japanese fossils. 東京築地書館発行 今迄に発表された日本産の化石の中から重要なものや良い標本の写真を集めた解説書で、化石の手引きとして恰好なものである。6シートづつで1回分として、1つのたとうに入れて750円で分売している。全部で108シートが1968年8月から1971年10月までの間に発行されたが、その内27シートは植物化石を扱っている。参考のため地質年代別と並べると下の通り。

白亜紀、北海道大夕張の花粉、石川県手取層群石徹白植物群(2シート)。

ジュラ紀、福島県相馬地方の藻類。

第三紀始新世、石鎚山脈の植物。

新第三紀の植物：北海道福島、同じく西南部、会津盆地(2)、能登珠洲(2)、美濃山地(3) 珪藻：佐渡(2)、男鹿半島(2)。石灰藻：秩父、伊豆、岐阜。

第四紀の花粉(6)。

(前川文夫)

□佐藤敏也：日本の古代米 346頁，図版39，2,000円，昭和46年11月東京，雄山閣発行。著者は古代米に打ち込んでおられる考古学者であり農学者であるから、本書が古代米の一番たよりになるまとまったものとして推賞できることは当然である。縄文晩期の遺蹟出土の粳や米粒からはじめて、幕末時代の救荒米の残ったものまで、あますところなく計測したデータを挙げ、それに足場をおきながら、出土古代米の研究史、日本の稲と外国の稲との比較、日本の野生稲の論議、日本の稲の発現からその変遷等を述べている。日本の稲について関心のある方には基礎資料としておすすめしたい。

(前川文夫)

□山溪カラーデラックス：カメラ飛行日本列島 Japan from the air. pp. 355, pls. 152, 山と溪谷社(東京), 2,800円，昭和46年6月。姉妹篇の「美しき日本」で近くからうつした日本の紹介を空からみたもの。印刷がきれいだし、ふだん見慣れぬ角度から物してある写真集だけに、見るだけでも楽しい。中には大雪山の針葉樹林から高山帯への推移、尾瀬の湿原とダケカンバ林との切り合い、サロマ湖のアッケシソウの大群落、宗谷の浅い浸蝕谷へ入り込む落葉樹林、宮崎青島のピロウの群落、伊勢外宮のスギの老齢林など、植物の群落の生態を大きく示すものもあって、参考になる。

(前川文夫)